

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山 大念寺

住職 大島 祥明



「七仏通誠偈」

死んで、終わりではありません。
殺して、終わりではありません。
死んでも、心は変わりません。
悔いなく、未練なく、恨みなく、
恨まれることもなく、生きることに
死んでも、心はいまのまま。
だから、この「いま」が大切なのです。

七仏とはお釈迦さまも含めて、過去七仏と言われる理想の仏のことです。この教えは、過去の諸仏がみな同じように述べている普遍的な真理だということです。それは、次の言葉です。

諸悪莫作——もろもろの悪を作すことなく
衆善奉行——もろもろの善を行

自淨其意——自ら其の意(こころ)を淨くする
是諸仏教——是がもろもろの仏の教えなり

「悪いことをしてはならない、善いことをしなさい。そして、自分の心を淨めなさい。それが、仏さまの伝えた教えである」——そのような意味です。

この教えは、端的に仏教の真理が述べられています。悪いことをすれば、ほかならぬ自分の心が痛みます。汚れます。荒みます。そして、ますます悪いことをするようになっていきます。善いことをすれば、自分の心が喜びます。清められます。穏やかになります。そして、ますます善いことをしようと思えます。

もつとも大切なことは、自分の心を淨めていくことです。心を軽くしていくことです。仏教の教えとは、暮らしの中でたえず心を淨めていくところにあるものなんです。

●PHP研究所刊『死んだらおしまい、ではなかった』より。